

2012年

秋の課題作文優秀作品【小学部】

Y・Mくん（中川小）

他人と話をする時に大切だと思ったこと、それは、相手と気持ちよく話すことなのではないかということです。

理由は二つあります。まずはじめに、年代によって言葉を選ぶということですが、お年寄りや英語になじみのない人に外来語を使ったり、若い人達に時代劇のような言葉を使ったり、なじみのない言葉を使われると意味が伝わりにくくなります。このように、年代によって言葉を選ばないと、話が通じなくなってしまう他に、失礼にもなってしまうです。

第二に、親しさによって言葉を選ぶということです。例えば、目上の人やよく知らない人になれなれしく話すと失礼になることがあります。また、親しい友達に毎回敬語を使われると拒絶されているような気がして、嫌な気持ちになります。さらに、突然見ず知らずの人に軽々しく話しかけられても、嫌な気持ちになります。このように、親しさによって言葉を選ばないと、知らない人に嫌な思いをさせてしまったり、友達にも嫌な思いをさせてしまったりするかもしれません。

これらのことにより、相手の気持ちを考え、両方が気持ちよく話すことが、大切だと思います。

K・Mさん（長津田第二小）

私が話をするときに大切だと思うことは、相手が理解できるように話すことです。世代によって、言葉や言い方が違います。話をするときは、その相手の世代に合った言葉を使うと、相手と話しやすいと思います。

私はおばあちゃんの家で、「えもんかけとって。」と言われた事がありました。私は、「えもんかけって？」と聞き返しました。おばあちゃんは「ハンガー」のことを「えもんかけ」と言うので、分かりませんでした。他にもおばあちゃんは「スプーン」のことを「おさじ」と言います。私は、「ハンガー」や「スプーン」と外来語で言うので和語で言われたのが分かりませんでした。きつとほんどの子どもが分からなかったと思います。

しかし、私がおばあちゃんに去年流行語大賞にノミネートされた「どや顔」や「こだまでしょうか」を言ってもどういうこと？と聞き返してきます。つまり、私とおばあちゃんでは世代が違うので使う言葉がちがいます。

ところで、言葉が通じないのは世代が違うこと以外にもあります。専門用語もです。私はバレエを習っていますが、家族にバレエの専門用語を使って話しても家族はみんな理解できません。けれども私は、サッカーや野球などのスポーツの専門用語はわかりません。なので、専門用語を使って話しても、相手がその専門用語を知らないと話が成り立ちません。

私は、話をする時は相手の世代に合った言葉を使ったり、解り易い言葉を使って、相手のことを考えて話したらいいと思います。私はいつも自分の話しやすい言葉で話しているので、これからは少し考えながら話せたらいいです。

秋の課題作文優秀作品【中学部】

S・Dくん（荏田南中）

他人と話をするときには大切なのは、相手を観察することだと僕は思う。なぜなら、それが話を滞らせることなく、円滑に進めるための第一歩だと感じるからである。

特にこの「観察」することを必要とされるのが、和語、漢語、外来語を使い分けることに慣れていない人を相手とするときだ。例えば僕が祖父と会話していたときのことである。僕は部活動について話をしていたとき、バスケットの試合のことを「ゲーム」と表現した。祖父は話題が変わったのだと勘違いし、話は上手くいかなかった。これは祖父がバスケットに対する理解があるかどうかの「観察」を怠ったために生じた。こうした積み重ねが、伝えたい情報を妨害し、相手に届かなくさせてしまうのである。

それを人々が防ごうとしているのは、資料②からも読み取ることが出来る。「友達同士で話すとき」のグラフは和語、漢語、外来語それぞれの割合にそれほど差はない。しかし、「初めて会うお年寄り」と話すときでは、和語が八割以上を占めている。すなわち、お年寄りと話すときに「観察」をして和語に変えているということである。友達同士で話しているため、三つの言葉に慣れている人たちが、お年寄りには和語を話すことに慣れていると観察、もしくは予測することで、会話をお互いの言葉に困らないものに行っている。

このように、現在では相手の慣れた、またはその場にふさわしい言葉の選び方がされている。僕は統一性が無いからといって、どれかの言葉に絞るのには賛成できない。それぞれの語の個性を残したい。人々全員が余裕を持ち、そういった個性を表現するために言葉を選ぶときが来て欲しいと僕は思う。

O・Nさん（東山田中）

あなたは、現代人の言葉使いについてどう感じているだろうか。様々な技術が発展した今現在、機械と向き合う仕事もとても増えた。日常の様々な行動を機械に頼っている現代は、人と関わることも少なくなっているのではないだろうか。そんな中で過ごしている私たちは、本当に正しい言葉をその場にあわせて使っているのか。実際日々の生活の中で自分の言葉使いについて考えている人間などあまりいない。ただ、相手の言葉使いを気にする人間は多数いるのだと思う。

私もそのような経験があった。テレビを見ていても、大好きな本を読んでいても、どこからともなくついてくる聞いたことのないカタカナの言葉。見たものによってはその言葉について解説しているものもあったが、解説がないものは、そのことばが何を意味しているのかわからなかった。人と話していても、普段はあまり聞かないような言葉を平然と使い、つらつらと話されたりして、あまり良い気分ではなかった。

このように、自分が知っている言葉でも、相手が知らない、理解していない言葉かもしれない。私たち現代人は、相手のことを気にかけて話す「気遣い」がうすれてしまっているのではないだろうか。

「他人と話す」ということは、会話する一人ひとりが相手のことを気遣い、言葉を選んで話すことだと私は考える。「言葉」は、人によって選んで使うものだ。ありのままの自分を伝える「言葉」は、自分が心を許している人に、相手のことを考えて使う「言葉」はあまり話したことのない人に使う。このように、話す相手によって自分なりに「言葉」を選ぶのが、他人と話すときに大切なことだ、と私は考える。